

令和 4 年度

第 8 回 和光市地域公共交通会議

(1) 開催概要

- 日 時 : 令和 5 年 1 月 23 日(月) 10:00~12:00
- 場 所 : 和光市役所 研修室
- 出席者 : [和光市地域公共交通会議委員] 出席 19 名
[事務局] 5 名

(2) 会議の概要

1. 開会

2. 挨拶

市長

本日はお寒い中、第 8 回和光市地域公共交通会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。委員の皆さまにおかれましては、日頃より和光市の公共交通に関して多大なるご尽力をいただきましてありがとうございます。

市内循環バスの運行見直し案につきまして、和光市地域公共交通計画に基づき、コンパクトな運行への見直し、長い運行時間の解消や運行本数の増加等により、使いやすい市内循環バスを目指して策定にこれまで取り組んでまいりました。

昨年 7 月に開催した第 7 回和光市地域公共交通会議において、委員の皆様市内循環バスの運行見直し検討の進捗状況についてご意見をいただいております。その後、地域公共交通事業者部会及び公共交通研究会等におきまして、討論を重ねてまいりました。この度来月 2 月に予定しているパブリックコメントにおきまして、市内循環バスの運行見直し素案が完成しましたので、本日はそちらに関して委員の皆様のご意見等をいただき、ご承認いただければと考えています。本日も皆様どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議 事

- ① 市内循環バスの運行見直し及び新たな移動手段の導入に関わる素案について
 - ・資料 1 を基に事務局より説明

会長

関連する内容のため、報告 1 についても一緒に説明してはどうか。

- ② タクシー利用料金助成事業の実施状況について
 - ・報告 1 を基に事務局より説明

会長

この事業はエリアを問わずということ。1回につき初乗り運賃分1枚というルールは同じか。

事務局

どちらも同じルールである。

会長

そのルールだと、1が利用率17.78%、2が15.7%で、2のほうが少ないように見えるが、一人あたりに配布している枚数が違う。1は12,326名に配布して、利用実績が8,768回なので、一人あたり0.71回使用しているということ。一方で2は262名に配布して、利用実績が658回なので、一人あたり2.51回使用している。頭数で割り返すと、空白地域のほうが3.5倍多く利用されているということになる。

皆様からご質問があれば頂戴したい。

委員

資料1の4頁の運行日について、年末年始を除く毎日とあるが、土日を含めた毎日なのか。

資料1の10頁の高齢者向けフリーパスについて、1年程度の利用状況を踏まえて検討とあるがその根拠は何か。フリーパス導入の目的が「小銭を支払うのが煩雑」なだけなのか。

資料1の11頁の空白地域の交通手段について、タクシー利用助成にした理由は何か。

資料1の12頁の継続検討事項について、公共交通計画の中で他にもある中で特に力を入れる4つを取り上げたのだと思うが、その中でも「4 公共交通と福祉施策～」の、福祉部内での検討や公共交通との連携について聞きたい。

資料の最後にあるバスルートが5ルートではなく4ルートの理由は。

事務局

年末年始の運行については、12月29日から1月3日までを原則運休としている。1月4日が日曜だった場合は、現状の休日と同様に1便と最終便を運休とする。

10 頁の高齢者向けフリーパスについては、当初ワンコインで利用できる形式を検討したが、財布から小銭を出して支払うのは煩雑で不便であるほか、運転手の対応に手間が多いと考えた。フリーパスを使ってもらおうという考え方を検討したが、導入する場合の金額や期間が固まらなかった。運行改定後、利用状況を見ながら金額と期間等の運用方法を検討していきたいと考えている。

11 頁は、現状で対象者が 200～250 名程度と見込んでいる。今年度の交通空白地域のタクシー料金助成金対象者 260 名から、来年度は減少すると想定し 250 名以内とした。対象者数が限られており、タクシーを呼びたいタイミングで利用できるだけでなく、外出先で流しのタクシーも利用することができる。少ないコストで高い優位性を得られると考えこのような提案をした。

検討事項について、交通計画では他にも様々な事項を記載したが、今後特に力を入れて取り組んでいきたい事項を記載した。福祉部局とは夏頃から意見交換をしたり、福祉関係の会議に参加してきている。まだ不十分であるので、今後も福祉部局との連携と各団体へのヒアリングを通して全体の状況や潜在的課題の把握に取り組んでいきたいと考えている。

地図については、4 ルートのもは以前の検討会において検討状況として配布したもので、変更点を比較できるよう配布したものである。

会長

補足として、土日祝日は始発を遅くしていいのではないかとという話が市民研究会では何度か出ていた。今回、この内容をパブリックコメントとしてご意見を賜るので、市としての考え方を記載しておいたほうが丁寧なのではと思う。土日祝日は、朝と最終便を 1 便ずつ運休するということ。

10 頁の年間フリーパスは、現状で一般利用者を 150 円、優待利用者を 0 円で計算すると、循環バスの一人当たりの支払い金額は 42 円であり、優待利用者の割合が多い。高齢者の外出促進を目的に作ってきた制度なので、一定の収支率を見込めるのであれば、高齢者フリーパスとして負担を低減して外出促進に寄与してもよいのではないかと、という議論もある。収支率の設定については財政的な事情もあり、すぐに結論が出せるものではないが、そのような内容も付記しておいたほうがこれまでの議論に忠実ではないかと考える。

福祉部局からお話いただいた後、質問者からお話いただきたい。

福祉部局

福祉部局では、障害者を対象にタクシー券を配布している。公共交通政策室には、タクシー券について契約処理等の情報共有を行った。

会長

質問に回答いただいたが、質問者から何か補足質問は。

委員

これからの進捗はどのような予定か。

福祉部局

現在は70歳以上が対象者となっているが、福祉的な視点で、高齢者の対象者について検討していきたい。

委員

バス停の名称について、ルート②のバス停「二軒新田」を総合福祉会館と書いてもらえれば利用者として助かる。できれば総合福祉会館に乗り入れてほしい。

会長

停留所の名称が利用者を混乱させないこと、降りた停留所からどこに行けるのかわかりやすくすることはとても重要な意見だと思う。

事務局

他の施設等については公共施設名がバス停の名称になっている停留所もある。二軒新田は総合福祉会館の利用者も多く利用しているため、前向きに検討していきたい。

会長

今日の提案の段階では、まだ停留所の名称が決まっていない所もある。停留所の設置には道路管理者の許可や地先の方からの了解を得なければならず、前後の停留所との間隔が開きすぎないように配慮して設置検討している。最終的にはパブリックコメント終了後、委員の皆様に具体的なルートと時刻を諮る際に調整されるということでよろしいか。

事務局

ダイヤも含め今後調整し、最終的には承認前に詳細をご説明させていただきたい。

会長

それまでの間にまた名称等で気になる点があれば教えていただきたい。

委員

下新倉氷川神社(ルート④)、新倉氷川神社(ルート③と⑤)が紛らわしくわかりにくい。新倉氷川神社近くには新倉北センターがあるので新倉北地域センター入口にしてはどうか。もしくは車内アナウンスで新倉北地域センター(新倉氷川神社)とか。わかりやすいことが大事。

昨年、福祉の運行バスが改定され、ありがたい。外出促進に効果的だったと思う。介護予防事業が各公共施設で行われているが、便が無いところが多い。循環バス再編後に介護予防事業を利用するバスの利用者の動向を福祉部の方で調査、減っているようであれば福祉バスを介護予防事業利用者向けに出して欲しい。

バス停の利用者調査結果が出るのが遅かった。結果が反映できているのか疑問。利用者が多いのに削られた所もあるので、ルートを変えるわけではないが停留所位置をずらすか、増やすか検討して欲しい。特にルート④は走行距離が長いので削らざるを得なかった停留所が多い。

マイクロバスの運賃支払い方法。電子マネー導入にはお金がかかるので予算確保をお願いしたい。

タクシーチケット予算の確保。利用者が利用しやすいようにまずは予算を確保して、予算分配の際、公共交通に予算が多く充てられているように誤解されないように福祉がやるなど分配の仕方考えた方が良い。

スケジュールが大雑把。これまで挙げられてきた話題を、今の内からどのように進めていくか検討して欲しい。3月にもう一度提案して欲しい。

会長

個々の課題で合意点に至っていないということは冒頭お話しした通り。やむを得ず180円と100円という運賃設定をした中で、今までは行けていた目的地に行きにくくなったという現象が起きないかという発想は持っておかなければならない。福祉部局とも協力しながらやっていかなければならない。

事務局から質問への回答をお願いします。

事務局

新倉氷川神社の停留所名称について、前向きに検討したい。

介護予防事業については、バス停前後で歩くことも外出促進や健康寿命の延びにつながる。アクセスの利便性が低下していないか検証する必要があると考えている。

バス停の削減について、調査反映が遅くなったことは申し訳ない。以前のルート①案は新倉氷川神社を運行していなかったが、利用者が多かったので戻した。野川公園についても想定以上に利用があったため一部の便の運行とすることで復活した。路線バスと共存しながら市内の利便性向上につなげたい。

予算について、ICカードのシステムも含め初期費用がかかる。タクシー利用料助成についても必要予算を確保したい。予算の在り方についても意見交換をしていきたい。

福祉部局

福祉バスの運行について、施設が限定されている所で他の施設に行くことは難しいと考えている。

委員

公共交通計画にある目標「すべての市民の移動の自由を目指して」という目標は届いていない状況かと思う。

バスに乗れる方と乗れない方の中間にいる人達が今後増える。そこを取り入れて福祉部局と連携して欲しい。どのように進めるか等、研究会で検討したかったが出来なかった。

公共交通計画の、多様な交通サービスとの連携。調査・検討・実施が令和4年度～8年度までずっと線が引かれており、いつやるのかわからない。やるぞという気構えをもって具体的に進めてもらいたい。公共交通が便利になれば、タクシー利用料助成の対象者が減るのではないか。

会長

路線見直しと運賃の変更は労力がかかり、1年くらいかかる。循環バスの運行だけで終わりではなく、まだやらなければならないことは沢山ある。力を合わせて皆様とともにやっていきたい。

委員

現行フリーパスの利用者(お金を払っていない方)の割合(人数)を教えて欲しい。

事務局

全体の6割から7割程度。令和3年度は延べ8万人程度。コロナ前は延べ10万人程度。

委員

タクシー利用金助成事業で3,000万円近い予算を確保しているが、利用は1,000万円程で済んでいる。予算上から見れば余った分を使うことで高齢者から運賃を取らなくて済むのではないか。

事務局

タクシー利用金助成事業は、現在は市内全域と空白地域の2パターン実施しているが、今後は空白地域のみを行うことになる。対象者数も200名程度になるため、その分予算が圧縮されると考えている。効率的な運行の中で利便性が高い循環バスを、継続的に一定の収支を得て運行していくため、運賃100円として提案させていただいた。

委員

タクシー利用券助成事業は単年度(今年度)で終わり、300mの方(空白地域)しか残らないということか。これは市民を馬鹿にしているのか。1年で終わるとは書いていない。来年も来ると思っている人はいるのでは。

100円は取らないで欲しいと言っている人は多いのだから、無くした分の少なくとも1,000万円分をバスの方に回して無料にしたら良いのではないか。

市長

タクシー券については、コロナ流行後に交付金事業として実施したため1回限りとなる。

会長

研究会では無料にするべきかという議論はあったが少数だった。今よりも使えるバスにしてほしいという意見が多かった。車両台数が増え経費が上がるにも関わらず、無料にする合理性が私には理解できない。5年前は一人当たりの運賃負担額が48円だったが、コロナ禍の前年では42円。利用者は1万人以上増加したが、一人当たりの負担額は減っている。利用者が広く薄く負担しつつ、市民の皆様も税金としてさらに負担するという構造にして、みんなで育むようにしなければいけない。そうでないと利便性を高めるということもできない。交通手段が行き届いていない人にもっと投資をする必要はある。どのように市の財源を再分配していくのかは今後必要な議論。

高齢者に100円負担してもらうことは、パブリックコメント等で批判されることは覚悟しているが、本数が増え若い方など今まで使っていなかった人が乗ってくれるかもしれない。仮に収支が安定すれば、もっと高齢者は安く利用できるよう整備できるかもしれない。ずっと100円で負担が大きくなるように市民研究会では年間パスポートも提案された。

広く薄く皆様が負担することで循環バスを育てていくという新しいフェーズに入れられないのか、というのが私の到達点。ただ当然0円から100円になるし、他の財源から出せるのではないかと思うのは承知している。近隣自治体の例として、武蔵野市では全員100円だが、みんなが広く薄く支えるという意識が認知してきた。10月から運行してどのように変わったか検証する中で、高齢者の負担額の低減やそれ以外の方をどうするか判断するということになる。

委員

予算の再配分となるから出せるところ出せないところが出てくるのはわかる。ただ、単年度3,000万円近くになる予算を捻出することが出来るなら、またそれを無くすというのなら、代わりに循環バスを利用してもらえるような配慮をする必要があるのではないか。70歳以上、障害者、その他の必要な人達がタクシーを使わなくても利用しやすい環境づくりのために無料乗車証を配る必要があるのではないか。

会長

今回はコロナ禍の臨時交付金を使って交通事業者の支援のために特例的にタクシーチケットの事業が行われたが、市民に伝わっているかというところではない可能性がある。ロードマップを整備しておかなければならない。

委員

フリーパス券について、高齢者は事故などがあり年度途中で諸事情により使わなくなることが出てくる。途中で止めた場合は返金できるようにしてほしい。

資料2について、西大和団地は停車しないとあるが、停めてほしい。時間帯によっても混雑の度合いは異なると思う。そのようなことも含めて精査していただきたい。

事務局

西大和団地に停車する便と通過する便の2パターンを検討している。全く停まらないというわけではない。

フリーパスについて、期間や金額の検討が必要。途中返金の在り方についても検討していただかなければならないと考えている。とても貴重な意見なので検討の際の参考にさせていただく。

委員

(ルート④について)西武バスの運行路線で丸山台という名称のバス停があり重複している。既存バス停からは離れた距離になるかと思うので別名にするなどお願いしたい。

今後、オープンデータ化されると同じバス停なのに距離があると理解されづらくなる。また、オープンデータについては同時に英語名称をどうするのか慎重な検討が必要になるのをお伝えしたい。特にコミセンという名称は注意が必要。

東武バスさん、国際興業さんも重複するバス停が出てくるかもしれないので考慮をお願いしたい。時間帯によっても混雑の度合いは異なると思う。そのようなことも含めて精査して頂きたい。

会長

停留所名は、市役所前ではなく和光市役所前とするなど議論が必要。事務局で具体的なルートに落とし込む際に検討してほしい。

委員

和光市駅南口のどこに乗り継ぎのバス停を置き、どのように乗り継ぎをするのか。

事務局

全ての便で降りた場所から乗れるように、かつ待機時間が少なくなるようダイヤ調整を

行いたいと考えている。現行では既存循環バスと同じバス停(乗り場2)にする予定。

委員

和光版 MaaS の進捗状況について知りたい。

事務局

MaaS は「移動におけるサービス」という概念で、どんなサービスを移動に付加していくかということをもととして課題としている。検索や支払いの一括化や目的地となるスーパーや医療機関の予約やクーポン券を付与できるサービス等を検討していく。個別の解決しなければならない問題を精査した上で、それぞれのサービスをどのように組み合わせたいかを検討している段階。

4. 報告事項 2

① 自動運転サービス導入検討について

・資料を基に事務局より説明

委員

「現行の支援体制を維持したまま」とあるが、国の支援はあるのか。

事務局

金銭的支援については実施計画に基づき、地方創生推進事業として支援をいただいている。整備に係る計画に関しても、計画の範囲内で事業費の支援を受けるとすることで承認を得ている。ここに書かれている「現行の支援体制」については、国交省、総務省、東武バス、NEXCO 等と令和 6 年度末まで機会を設けて検討を推進していくということ。予算に関しては単年度となるのでその都度要望していきたいと考えている。

委員

新倉地区等の自治会長から緑が無くなったと批判がきている。

市が負担するお金がいつまで続くのか教えて欲しい。

スタート地点がどこか教えて欲しい。

計画するなら目安があるわけで、行き当たりばったり感が強い。

道の駅がどうなったのか知りたい。自動運転の運行方法や、安全管理等の全体計画が分からない中で、唐突に自動運転専用車線の整備計画のみが、今回の会議で出されているのを疑問に思う。安全性の確保について具体的に教えて頂きたい。

事務局

予算面については令和6年度末まで、和光市として8億8000万円の見込みのうち、国費負担分以外を負担するという点で説明している。来年度予算については3月議会で承認されるまでご説明はできない。

この事業は令和6年度末の本格社会実装を目指す点は変わっていない。ただ毎年の事業については、協議会を形成して翌年度の取り組みを議論し、確定した内容に基づいて予算をつけていくもの。市の負担を圧縮するための検討は、毎年協議会の中で行っている。現段階では想定範囲内に収まっているためご理解いただきたい。

バス停に関してはSGリアルティ路線と同じく駅前北口バス停を発着する形で検討している。

委員

実証実験で安全の確保はどのようなことをするのか。

事務局

今年度9月に車両を持ってきて試乗をした。モニターシステムで飛び出てくるものを感知して、自動もしくは運転手が即時に対応できるよう走行実験をしていきたいと考えている。

委員(東武バス)

当初、北口はバスが入れない状況が考えられるため北口は使わないという話になっていたが、南口と北口を分けると利用者の利便性が確保されないため、当社から北口を使うということで提案した。

5. 閉会

委員の皆様においては、会議開催にご協力頂きありがとうございました。次回の公共交通会議については、3月頃を予定している。詳細が決まり次第、改めて共有したい。本日はありがとうございました。

以上